



注
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

國力發展の基礎は 交通國策に在り

國家産業の開發とか國民文化の伸暢とか國防の充實とか非常時局の重大對策としての國策が論議せらるるが此等國策の基礎は何んと言ふても交通の完備である陸上交通海上交通空中交通と平面的に又立體的に根本國策を確立せねばならぬ、交通力なくして産業の開發文化の伸暢國防の充實を何に求めんとするか爲政者も軍人も代議士も新聞記者も其の具體化に努力すべき義務がある、理論鬭争よりは事實具化でなければ今日の急務に應ずることが出来ない、處で土

本國策が一昨年内務省に於て企圖せられて第二次道路改良計畫が土木會議に提案せられ二十年間繼續事業として七億七千餘萬圓を支出して國道の千八百三十里重要府縣道の四千四百六十里改良の事業を決定したが實現は果して何れの日かと懸念して居つたが頃日總額六億六千萬圓を以て土木五ヶ年計畫を案し治水港灣道路に涉り積極的對策を決定するに至つた而かも道路は二億千五百五十萬圓を見込みたるとの事である故に一ヶ年間に平均四千三百千萬圓の事業を施工しなければならぬこととなる實に痛快を覺ゆる、國道改良事業は大正八年度以來單年度經費として要求し施行したと耳に

して居るが事實は繼續事業で只大藏側で豫算の型式、編成上から年度豫算として取扱つたと思はるゝが、夫れを前廣瀬局長が繼續豫算として財務當局の同意を求め遂に豫算案に其方針で計上したと傳へらるゝ。之れは路政上の大功績である此意氣込で土木國策の實現化を土木局當局に切望する次第である。(土方生)

再度山ドライブ ウエーの禮讚

關西道路研究會長坂本助太郎博士が實地研學からもちらせられた禮讚はこうである。
「神戸市自慢の再度山ドライブ・ウエイを踏

んでその立派さに驚いたがより以上胸をう
つたのは鋪裝道路が完備してゐることだ、
研究上全國各都市の道といふ道は片つばし
から踏査して來たが神戸ほど鋪道の完全な
土地はない、日本一の「鋪道都市」といつ
てもあへて過言でない、あまり鋪裝道路が
多すぎて田舎の人などは外國へ來たやうな
氣がするといつてゐる、また京都、大阪の
人々は「神戸は海港都市で外國人が澤山居
住してゐるから彼らが金を出してコンクリ
ートの道をつくつたのだ」と負惜みをいつ
てゐる、これは苦笑もんだ。

ドライブ・ウェイは道路の幅員、距離、
周圍の眺望などからいつてまさに日本一の
觀光コースであるがこれも鹽ヶ原までには
單なる遊覽道路に終つて仕舞ふ、目下六甲
山までの延長工事をすゝめてゐるさうだが
これが完成すれば名實ともにニッポン一の
ドライブ・ウェイとなり、日本へ來朝した
外國觀光客は神戸のドライブ・ウェイを知ら

ねば日本を知らぬといふやうになるだらう
そして日曜、祭日だけではなく毎日一定の
時間にバスを運轉してオール神戸人に親し
ます必要があると思ふ」と僕も日本一の觀
光道路と思ふ他の地方でも奮展しては如
何。(南海生)

日光街道杉並木を 保護せよ

森々として日光街道の九町間に其巨體を
維持し行人をして轉々驚嘆せしめておる杉
並木は實に國寶的存在である、如何に交通
上の必要があるからとの理由で、其生命に
害あらしむるが如き工作は絶対に養成し難
い今回三好學博士と丸山瓦全氏とが杉並木
保護の意見を其筋に提出したとの事である
其意見は

土堤の勾配を利用して路面に約三尺の土
を盛るのは史的價値を零にするもので鋪
裝するなどは以ての外、まるで陽明門

をペンキで塗り變へると同じだ、土盛り
すれば杉の根が土で埋もれ道の兩隅を流
れて居るせゝらぎの水が浸みこみ根を弱
らせ又路面が高くなることによつて自動
車の煙が枝を枯死させる憂ひがある路面
の左右に點在する電柱を土堤の外に出す
だけで三尺位利用面積が廣くなるし通行
する貨物自動車積の積載容積の幅を制限
するのも一方法で更に土堤の外空地に
並木に併行して新道路を設け往路と復路
を別にするのもよい。

といふのである。何んと明案ではなからう
か大々的養成である(愛杉生)

世界一の大穴

直徑一哩周圍が四哩、深さ六百呎といふ
大穴がアメリカのアリゲナと云ふ處にある
夫れは流星の墜落した跡で中々珍しい大穴
である、今から二十年程前十數萬ドルの巨
額の費用を投じて流星の發掘に従ふておる

が此頃七百呎との地底に一大鑛石を見出したと傳へらるゝ之れが眞の掘り出し物である、そして其掘り出し物からどんな研究材料が発見せらるゝであろうか空中の秘密はどうであろうかそんじよそこの會社穴とは大變な違ひであろう。(鑽太)

道德波の發見か

地震、音波、光波、電波からは近年は物質粒子の波動性が唱へられ、一天四海皆歸波動の觀がある、更らに進んで精神波まで行つてもよからう、道德波そのスペクトルは波長の長い方が温味のある利他波で波長が第次に短くなると冷かな殺生性の利己波に移行し短い程惡性利己になる、我利我利亡者は光で云ふと赤色盲だ波長計で不徳漢の検出も出來ると工學博士野口孝重氏が話された、此波長検出計を用ゐて軍人を檢波したら大杉榮夫婦も永田局長も高橋是清翁も齋藤實翁もムザ〜生命を奪はるること

もなかつたらう、ムツソリニーを檢波したらエチオピア國も國防設備が完ふせられたであろう。(夢想兵衛)

原生動物の心の働き

心の働きの鈍な人物を蟲けらにも劣ると謂はれて居る、處がジェニングスは「人間が感覺し得るものは殆んどすべて原生動物も感覺し得る尤もその度合には著しい差違があるのだが」と云ふて居る、最近獨逸で單細胞動物の聯合能力が研究されたがザウリムシに明さと熱と聯合させることが出來たのみでなく圓形、三角形、方形等の形や大さをも覺へさせることが出來たと傳へられて居る、單細胞動物の心の働きが訓練される世の中に高等動物と自稱する人類の心はなぜに訓練されないか。(好學子)

天保錢が廢止された

あの楕圓形と中央に四角な穴がある天保

錢は形の上からも一錢に二文不足する八文錢といふ機能不十分な質の上からも好ましくないからぬもので明治の中葉時代廢止せられ今は古錢好愛家とのみに珍重がられて居る、だが明治十八年十二月十九日大山元帥の陸相時代「參謀長適任章」として制定せられ軍人中の逸材證明の天保錢と俗稱する陸軍大學校卒業徽章はあらずもかなと將校の胸間を見るときに感じたことだ、優生非優生の區別、學閥の表徴、階級意識の標示等々の認識を與ふるのではなからうかと懸念して居つた天保錢組と無天保錢組との差別は面白くない感覺を惹起さす單なる履歷の表現としては餘りにも皮肉的である、時局不向であるので先達て廢止の運命となり將軍達の胸間から姿を消したことは矢張時勢の現れであろう。(鴻臺子)